小平在住の女性を訪ねて、
そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいきレディ㉓

—市民が財政白書を作った—
“なんとなく”が“やらないわけにはいかない”になったワケ

古家 裕美（ふるや ゆみ）さんを訪ねて
（花小金井在住）

夏祭りで子どもと。「いろいろな世代の人たちとのつき合いがあったので、子育ては楽しい」と話す古家さん。

お財布を持っていたら、その中身が気になる。古家さんたちのこだいら市民提言の会[1]は、小平市のお財布の中身を調べて、今春『小平市民財政白書』[2]を作った。

子どもを自分の脇に坐らせ食事中のパパを見ても驚かないほど、男性の子育ては当たり前になった。そんな古家さんたちに地域センターで会った。昼食後、古家パパと子どもは遊びに行き、古家ママはインタビューに応じてくれた。

◆まちの人たちと話がしたい

古家さんは、多くのサラリーマンがそうであるように、働いているときは自分が住むまちにさして関心がなかった。退職後、古家さんがまちの人たちと話がしたいと思うようになった頃、市報にワークショップ「小平市まちづくり会議」[1]参加者募集の記事が載った。「なんとなく面白そう」と思って応募して、わいわいがやがや話し合って、市へ『こだいら市民提言書』[4]を提出した。その後こだいら市民提言の会に立ち上げからかかわり、いろんな雑談の中から「まちづくりを考えるんなら、財政のことも知らなくちゃね」と会で財政の勉強を始めた。講師の大和田先生[5]に「勉強しているだけじゃダメなんだよ。多摩地域では次々と市民が自らの手で財政白書を作っている」と言われて、古家さんは自分は幹事だから白書作りをやらないわけにはいかないと思ったそうだ。さらに他市の白書を見て、このくらいならできると思ったことがきっかけだと言う。

◆グラフを読み解く

白書作りは資料を集めることから始まった。財政課から借りた、高さ1mくらいにもなる20年分の書類。決算カード[6]の部分を市役所1階でコピーする。とても時間がかかる。コピー機を利用する人が来ると、順番を譲りながらの作業をした。大変だったのはこの作業だけ。ソフトウエアを作る仕事についていた古家さんにとって、「パソコンをいじることは日常的なので、キライじゃない。大変だったけど苦じゃなかった。データを入力すると、思った通りグラフはすぐできました」と話す。でも、グラフを読み解くのに結構時間がかかり、特に問題意識がなかった古家さんは、「グラフを見ても、だからどうなのっていう感じでした」と言う。それが妊娠を機に、例えば、子どもの預け先、育てる環境、子どもの幸せなど、様々な問題意識が出てきて財政白書の原稿が書けるようになったと語る。

◆一番伝えたかったこと

この次に財政白書を作る時は、若い人たちに参加してもらいたいと古家さんは言う。「自分たちの住むまちだから、もっと考えて変えていってほしい。それには教育が大事だねって、私たちは話し合っています」。そして「どんなに小さいことでもいい。身近なことを、こうしたらよくなると考える、そういう関心を持ってほしい」—これが、古家さんが白書作りを通して市民に一番伝えたかったことだ。

①ワークショップ「小平市まちづくり会議」終了後、メンバーの有志がつくった会
②『小平市民財政白書』:こだいら提言の会の1部会、こだいら市民財政白書をつくる会発行の冊子。1冊千円。市内や近隣市の書店で販売。
問合せ:こだいら市民提言の会
FAX:042-463-5190
e-mail:kodaira-teigen@aglaia.cc
ホームページ:
http://kodairateigen.blog68.fc2.com/
③第3次長期総合計画策定のために市民の意見を聞いた会議
④その会議で市に提出した市民提言書。小平市のホームページで見ることができる。
⑤大和田一紘さん:NPO法人多摩住民自治研究所。多摩地区では国立市・東村山市・町田市など、大和田さんの講座を受けた市民が市民財政白書を作っている。
⑥その年度の決算の様子を数字で示してあるもの。これを基に計算式を使って数値を出し、グラフ化することから財政白書作りは始まる。

なつのひかり展をみて

（Group b 8月6日～9日 中央公民館ギャラリー）

「なつのひかり」展の展覧会場に一歩踏み込むと、まずあるのは暗闇だった。見慣れたはずの公民館のギャラリーで、「ここはどこだっけ?」と、迷子の気持ちになる。

そこへ「光」が現れる。伸縮自在の一枚布が部屋いっぱいに張られ、光をはらんでふくらんでいる。指で触れると薄衣のようにやわらかいが、弾力性があって、はじくと強くバウンドして揺れる。暗闇の中で見つけた、さわって楽しむ「光」のオモチャ（オブジェ）だ。

このオモチャをつくったのは、Group b。小平市出身の美大生を中心に「アート活動を通して小平市を盛り上げよう」と、結成したのだという。

ゲイジュツってなんだろう? という問いに、それは「価値を見つけ出すこと」だ、という答えを聞いたことがある。いつも小平にいると、小平のよいところが見えなくなる。アートを通して、小平の価値を再発見できたら、すばらしい。

HIRAKU KEIJIBAN ひらく掲示板

フォーラムと講座

「第13回女と男のフォーラム」は、平成22年2月20日(土)午後2時から、小平市中央公民館ホールで開催します。

今回は、ファンタスティック・プロデューサーの久田　恵さんにお話いただきます。テーマは「ひとりでもつながっている」です。

久田さんは、離婚された後、シングル・マザーで男の子を育てていらっしゃったのですが、息子さんは18歳のときに自立。その後は、30代後半から同居していたお父さんの介護を10年ほどされていました。お母さんの介護と合わせると介護生活は22年になるそうです。

今、「おひとりさま」ニューフェイスの久田さんは、自由さに戸惑いを感じても、ひとりで暮らすことの不安や寂しさは全くない、とおっしゃいます。ひとりで生きるためのヒントだけでなく、子育てや介護のお話もお聞かせいただけるのではないでしょうか。

表紙作品

『ten-ten-ten』（粘土、アクリル絵の具）

画家／菅原瑞希（上水新町在住）

みんな同じように、体に「点」をもっています
みんな同じ空間、時間にいます
みんなで同じ池を見ています
その池にも「点」があります
同じ池を囲んで、みんなちがう事を考えています
（菅原瑞希）

瑞希さんは、シングルで、仕事をもち、二人の子どもの母親。出産後、しばらくは英会話教室の運営と子育てに専念していたが、数年前から、ふたたび絵筆をとったという。

「やっぱり描きたい、描き続けたい」という彼女の作品を見せてもらった。華やかな色彩にあふれたエネルギッシュな大作。内面的なモチーフも、彼女の筆になるとお日様の下で踊り出す。広がっていこう、つながっていこうとする積極性と、自分が好きなもの・大事なものはもちろん、そうでないものも否定せず受けとめていこう、という生き方が伝わってきた。

瑞希さんは、今この瞬間を「点」だという。過去は「点」、未来も「点」、そのたくさんの「点」があったからこそ、今があるのだという。

手をつないでいても、それぞれが「別の時間」を生きているという現実。それをゆるし合い、みとめ合い、"ひとり"と"ひとり"は結ばれていく。

撮影場所:小平市たけのこ公園　　表紙写真:長塚秀人

映画・DVD

『グラン・トリノ』 2008・米

監督／主演　クリント・イーストウッド

朝鮮戦争帰還兵、コワルスキーと、ベトナム戦争のために祖国を追われたモン族の少年タオ。戦争のために心に傷を負った2人は隣人同士だった。

コワルスキーは帰国後は自動車工になり今は引退、愛した妻は彼を案じながら先立った。友もなく、老犬とビールだけを相手に暮らすコワルスキーにとって、隣のアジア人一家は目障りな存在だった。しかも息子のタオは彼の宝物のヴィンテージカー、グラン・トリノをギャングに脅されて盗もうとした。もちろん彼にライフルで追い散らされたが……。

街で不良に絡まれているタオの姉スーを助け、お礼に家族が持ってきた料理をきっかけに、虫の好かない隣人たちに親しみを持つようになったコワルスキー。そして、街にはびこるモン族のギャング達が、タオとスーの未来を蹂躙しようとしているのを知って、彼らを守ろうと決意する。

一人に慣れた、かたくなに一人を守ろうとする老人が、嫌っていた外国人の子ども達のために命をかける。硬直した彼の心を、子ども達への愛がほぐしていく。人間はやっぱり、誰かとつながっていなければ幸せではない、という真理が感動的によみがえる。

BOOK

『家族がいても　いなくても』

久田　恵・著　産経新聞社

若い頃から仕事をしながら、ひとりで子育てと介護をしてきた久田さん。現在はひとりで暮らす。日常生活の中で思ったことや感じたことを、産経新聞の「ゆうゆうLife」に連載してきたが、その2年に渡るコラムを本にした。どちらかと言うと、不登校だった一人息子が独立した後の介護についての内容が多い。家族はどんなにケンカをしても修復可能な関係だとか、今時の結婚生活の不思議な様子とか、団塊世代の夫婦の形とか、「介護後遺症」の話とか、介護をする同世代への連帯感とか、「そうそう」とうなづきながら一気に読んで、その後目次を拾って再度読む。悩みながら、訴えながら、必死に生きているけれど嫌みがない。本人は言いたい放題を書いたというが、人を攻撃せず、こうすれば生きやすくなるという希望があちこちにある。肩肘張らず、ぼちぼち歩く彼女の生き方がいいと思う。

行ってみました 東村山市子育て総合支援センター ころころの森

未就学の乳幼児とその家族のための子育て支援施設が、東村山市に昨年（2008年）10月オープン。運営受託するのは学校法人白梅学園。市民、大学、行政の三者協働で、様々な取り組みを行ない、市内外から熱い注目を集めています。

●親子で楽しく

受付をすぎ真っ先に迎えてくれるのは、「ころころの森」シンボルツリー”けやき”。幹の中で遊んだり、根っこのソファで一休み。職人さんの手作りが温かい。おもちゃも手作りがほとんどだ。遊び場、喫茶スペース、赤ちゃんコーナーなどに分かれているものの、フロア全体が見渡せるから、安心して子どもを遊ばせられる。その上大きなガラス張りの窓で開放感はばっちり。カラフルでポップな表示板が目に楽しく、旧保健所を改修したとは思えないほど、明るい空間だ。いつでも気軽に遊びに来れて、親子で楽しく過ごせる場となっている。

温かく迎えてくれるスタッフ。親のSOSも見逃さない。

●つながる場、ほっとする場、語らう場、遊びと学びの場

来館者の85％は0、1、2歳児親子。子育てが「孤育て」になる危険性をはらんでいる時期だが、ここに来れば同じく子育てしている仲間がいて、悩みを相談できるスタッフがいて、子育てに必要な知識やスキルを学べるプログラムも用意されている。子どもを遊ばせながら、親も友達をつくったり、ほっとしたり、語らったり、学んだり…。時には白梅学園学生たちがボランティアや授業の一環でやってきて、子どもと遊んだり、普段あまり接することのないお母さんとの会話を楽しんだり…。多世代が集い、わいわいがやがや楽しく子育てできる環境を整えている。心細くても、温かく見守ってくれる人がいると思えば心強い。

●その先に目指すもの ～子育てしやすいまちづくり～

特徴的なのは、子育て人材育成と、親子と地域（子育て関連各機関・団体等）とのコーディネイト（地域連携事業）だろう。「場所の提供にとどまらず、子育てしやすいまちづくりを目指しています。そのためには子育てしやすい社会にしなければ」と石井知子施設長。たくさんの人たちとのいいかかわりがその土壌となる。子育て支援ジュニアサポーター養成（小中学生対象）や白梅学園学生ワークショップ、地域NPOによるおはなし会等々、そのための新しい試みが目白押しだ。行政が主導するのでなく、白梅学園大学が蓄えたノウハウを生かし、市民が一緒になって作っていく。その道のりは長いかもしれないが、地に根をしっかり張って、ころころの森は大きく豊かに育っていく。

おもちゃはボランティアや地域のママ、白梅学園学生の手作り

小平には…
小平市子ども家庭支援センターがあります！

◆場所：東京都小平市小川東町4-2-1　小平元気村おがわ東2階
◆開館日・時間：火曜～土曜日　10:00～18:00
（祝日・年末年始を除く）
◆電話：042-348-2100
親子が交流できる広場や赤ちゃんのためのスペースもあります。また、子どもと家庭に関するあらゆる相談にも応じてくれます。
ホームページ http://fukushi.unchusha.com/kodomokatei_kodaira/

東村山市子育て総合支援センター ころころの森

◆場所：東京都東村山市野口町1-25-15
西武新宿線「東村山駅」西口徒歩8分
◆電話：042-395-7280
◆利用対象者：東村山市在住・在勤の保護者と乳幼児や登録団体
◆開館日・時間：火曜～土曜日　10:00～16:00
（祝日・年末年始を除く）　※入館無料
◆運営委託：学校法人　白梅学園
◆市担当課：東村山市子ども家庭部　子ども総務課
ホームページ：http://corocoronomori.jp/

編集後記

◆ひらくデビュー。「男女共同参画社会って何？難しそう」と思ってましたが、「誰もが自分らしく生き生きと暮らせる社会」はごく当たり前のことなんだと知りました。当たり前に思えることが、当たり前に存在している社会にしたいですね。（の）

◆表紙の撮影場所は、公立昭和病院近くの「たけのこ公園」。お盆真っ最中の猛暑日だったにもかかわらず、竹林から差し込む日射しは、やわらかく、別世界に続いているトンネルのよう。クルマが溝にはまるという思いがけないハプニングのおかげで、近隣の皆さんや○○さん、☆☆さん、見知らぬ方々にもお世話になって乗り切った。思い出深い表紙になった。（紀）

ひらくはココにあります

男女共同参画センター“ひらく”・公民館（11館）・図書館（11館）・地域センター（18館）・福祉会館・総合体育館・児童館・健康センター・市役所1F2F・東部、西部出張所・郵便局（17か所）・市内各駅（7か所）・八坂駅・萩山駅・東大和市駅

- 小川町　多加楽・手作りクッキーの店 歩・商工会館・JA東京むさし・コーヒーロッジ ベル
- 小川西町　佐野商店
- 大沼町　ガスミュージアム
- 小川東町　ギャラリー 青らんぎ・長江宴・ブレッドファクトリー 510・カフェAir（エール）
- 上水本町　アトリエ・パンセ
- 津田町　ハタエコンサーン
- 学園西町　ビューティーサロン サンローズ・中森書店・百の豆木・梁里館・美容室 ヘアーグラシュ・鈴木小児科・本間歯科・ヘアーサロン サンライズ・あかね薬局・床屋のけんちゃん
- 学園東町　日本堂文具店・梅の里・アクティブスタジオ・りそな銀行小平支店・グエン・バン・カフェ・おだまき工房・カシュカシュ・お化粧の しのざき・きそ歯科クリニック
- 美園町　多摩済生病院・ラグラス・珈琲の香・POEM・永田珈琲・ルネこだいら
- 御幸町　ケアタウン小平
- 鈴木町　和菓子の 玉川屋・きらら はうす
- 天神町　公立昭和病院・カフェテリア ヴェルデ・ヘアーサロン ひろ
- 花小金井　上原薬局・風のシンフォニー・辰砂（しんしゃ）